

OBI 後援会・同窓会 NEWS LETTER



〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル2F TEL.03-3296-1005 FAX.03-3296-4641 発行者 藤原 導夫 編集者 有田 貞一

OBIのクラスから生まれた本

ー独習聖書ヘブル語原典入門ー

後援会・同窓会会長 有田 貞一 [3期生]



2017年7月10日、いのちのことは社から、「独習聖書ヘブル語原典入門」が発行された。本書発行の意義は、これがお茶の水聖書学院（以下OBI）のクラスから生まれたということにあります。野口誠先生によるクラス「原典入門」は2009年4月から始まり、2015年3月まで、6年間続きました。その途中、野口誠先生から本書編集の提案がなされ、クラス全員の同意の下、その作業が開始されました。作業は2011年6月から2017年4月まで行われ、約6年の間に13回の見直しが行われた。

編集は、野口誠先生が原稿を作成し、クラスのメンバーが分担して、パソコン入力、見直しを行うという方法で行われました。この間、多くの質疑応答や提案がなされ、この作業を通して、各自のヘブル語のレベルが向上しただけでなく、「聖書は誤りのない神の言葉である」という聖書信仰の本質を深く教えていただき、大きな恵みとなった。

デザイン（フォント、大きさ、行間等）は梅澤近子が担当した。またヘブル文字は、SBL(Society of Biblical Literatureの略)のソフトをダウンロードしてBiblical Hebrew(Tiro) keyboard manualに従って入力する方法が採られた。初めてのヘブル文字の入力なので、慣れるのに多くの時間を費やした。作業は夜の11時から12時頃までなされ、夜中の1時ころに野口先生から返信FAXが届くような毎日が6年間続いた。所どころ、学習メモや余滴が挿入されており、大変興味深いすばらしい内容になっていますので、是非ご一読ください。OBIの図書として保管されています。本書は、いわゆるキリスト教書店だけでなく、八重洲ブックセンター等の一般書店でも販売



八重洲ブックセンター店頭に並べられた本書

されている。

本書の特徴は、その序言（はしがき）に記載されてある通りである。以下はその引用である。

「旧約聖書を学ぶ

上でヘブル語原典ではどうなっているかを知りたい方には、ヘブル語の真下に英語または日本語の訳が逐一ついていて、いわゆるインタリニア（Interlinear 行間逐語対訳）がある。それを有効に使用するには多少のヘブル語の知識があると大いに助かるのである。そのために本書は書かれたのである。

しかし、そうはいっても語学が不得手でヘブル語にはとうい手も足も出ないとききらめている方がいるはずである。私自身も語学が不得手なので、そういう方の気持ちがよく分かるのである。そういう方を念頭において、本書は学ぶ者の立場に立てることができるかぎりわかりやすく書いたつもりである。したがって本書は聖書のヘブル語入門書への入門書のようなものである。

本書はお茶の水聖書学院のありし日の聖書原典研究コースの研究生：編集主任有田貞一、補佐戸川偕生、石井由紀、協力者梅澤近子、小宮明子の5名と元講師の私との立場のちがう両者の共同の研究と作業から生まれたものである。本書の中に問題箇所があれば、それはすべて私の責任である。お気づきの点がありましたら、ぜひご教示をねがいたい。

なお、前学院長故世良田湧侍師と現学院長藤原導夫師および教職員の日頃の温かいご支援と内外のヘブル語の諸先生からのご教授と本書出版にあたって、いのちのことは社編集部の田崎 学氏のご好意に心からの感謝を表したい。野口誠」



出版記念講演会（2017.11.7いのちのことは社本社）左から、梅澤 近子、石井 由紀、戸川 偕生、野口 誠、田崎 学、野口 洋子、有田 貞一（小宮明子はこの日欠席）

奇跡のオルガン

お茶の水聖書学院長 藤原 導夫

お茶の水クリスチャンセンター8階チャペルに置かれた電子オルガンが老朽化し、私たちは対応に苦慮していました。そのオルガンは、お茶の水聖書学院の教会音楽科にとって無くてはならないものでした。実は長年使用しているうちに故障も多くなり、新しい部品の調達は難しい段階に来ていたのです。業者からは「今度故障して部品交換が出来ない場合はもう使用できません」と告げられていました。

ぜひ新しいオルガンを導入したいと私たちは願ったのですが、そこには大きな壁が立ちはだかっていました。なぜなら、これまで程度のオルガンを購入するには、およそ500万円は必用だったからです。OBIの現在の力ではとても実現不可能でした。

しかし事態をそのままにしておくことは出来ません。オルガンの問題を何とか解決しなければならず、OBI関係者の方々に声をかけたのですが解決には至りませんでした。そのような現実を抱えつつ時間だけは過ぎて行き、途方に暮れるばかりでした。

昨年末のある日の朝、我が家ではまたオルガンのことが話題になりました。「どうしたらいいだろうか?」ため息まじりに私は言いました。すると家内がこう言ったのです。「神様の方法で解決していただきましょう!」。私たちはその言葉に寄りすがるように、共に祈りを捧げ、朝食を摂りました。

私はいつものようにその日もOBIに出かけて行きました。するとOCC副理事長の榊原寛先生がニコニコしながら声をかけてくださいました。「藤原先生。クリスチャンで玉の肌石鹸の三木晴雄会長が村上宣道先生と榊原を通してOBIに500万円の献金を献げると申し出てくださったのだけれど、OBIとしての必用が何かありますか?」。私はあまりのことに驚きつつ即座に答えました。「丁度オルガンの導入を願っていましたので、ぜひお願いいたします」と。

何ということでしょう! これまで対応策が見当たらず、行き詰まり状態の中、天を見上げ、「神様の方法でお願いします!」と祈ったばかりでした。神様は即座に神様の方法で、その日のうちに答えてくださったのです。

その後、話しは一気に進み、今年3月にはアメリカから取り寄せた新しいオルガンがお茶の水クリスチャンセンター8階チャペルに設置されたのでした。そしてOBI教会音楽科の学び、OCCの集いやコンサートなどにも活用されています。

このことのためにこれまで祈ってくださった方々、心を砕いて取り組んでくださった方々、財を捧げてくださった方に心から感謝を捧げます。そして、それらすべてのことを御心に留めてくださり、まことに不思議な方法をもって応えてくださった主なる神を心から崇めます。

きょう、み声を聞いたなら

24期生 阿久津千枝子

主の聖名を崇め賛美申し上げます。主のあわれみと先生方の忍耐と祈りによって24回の卒業生となれました。後援会同窓会の祈りと御支援に心から感謝申し上げます。無理と思っていた卒業が叶えられたことにより「役員もさせていただけるのでは」と思われそれまで辞退していた役員に昨年の4月からなりました。黒磯教会は現在、鉄筋コンクリート築50年の旧会堂の解体工事が進んでおります。以前から新会堂建築の願いがあり私も委員の一員として関わってきました。しかし急転直下のように2018年4月から会堂建築を進めることになり、牧師館、事務室・集会室などが確保できない状態でのスタートに無理があるのではないかと思われました。また私は突然開けた隣接地に皆さんが車を止めておられるのを見るたびに駐車場やCSの活動、行事などにも有効で神さまが用意して下さったと思えて仕方ありませんでした。そのためにも隣接地の購入が先ではと意見を言ってきましたが、「会堂建築に多くの費用がかかるため隣接地の土地は購入しない。費用はすべて献金で賄い借金を残さない。」との方針が決まり、主に委ねました。主は目標額の献金を十分に満たしてくださいました。現在は市内の結婚式場用に建てられたチャペルをお借りし、礼拝を守っております。また牧師の住居や集会室件事務室もぎりぎりの時期に与えられ、集会や学び会なども守られ感謝しております。私は現在役員と建築委員などの奉仕をさせていただいております。高齢化が進み、役員は60代70代の女性5人。礼拝出席者が26～27名。

(数年前までは40人はいましたが。)小さな教会に新しい教会が立つことは神さまの御心です。(エペソ1:23) 御心ならば隣接地の土地もと祈っています。(ルカ11:5-13)

36歳で洗礼を受けてから37年が経ちます。60歳で退職して数年後、学びたいと牧師に相談しました。「主の確かな救い」を掴み取ったのです。何も分からず単身で出向いた向こう見ずさに我ながら呆れますが、そこにはすべてを包み込んで赦して下さる懐の深さがありました。

西 満先生は休学を余儀なくされた私に手書きのお便りを何度も下さり祈ってくださいました。水口 功先は一語一語の大切さを、世良田湧侍先生は丁寧を読むことを、藤原導夫先生は深く読み味わうことを、福井 誠先生はOBIIに繋いでくださり、どうにもならない卒業研究を忍耐の限りを尽くして指導してくださいました。岩上敬人先生の深さと明るさは育った環境に由来しているように感じ、横山 武先生は学院生が置いたお菓子を前に「教会では始めてきた人にはお菓子もつまずきになることがありますからね。」とアドバイス。先生方お一人ひとりに備わった豊かな人格と賜物に触れ喜びに溢れました。ある先生がおっしゃっていた「体臭としてにじみ出るほどにキリストに従う生き様」が確かにありました。キリストにあって成熟することの大切さを学びました。また学友との交わりも大きな宝です。「笑顔の素敵な人」「どんな状況でも受け入れる心の広さ、穏やかさ」これらは自分の信仰を見つめなおすよい機会となりました。そしてOBIIには主イエスさまの臨在による不思議な雰囲気があり、心の奥深くにしまい込むしかなかった葛藤や苦しみをいつのまにかさらけ出している自分があります。卒業後も継続研究生として週一日学んでおります。このことも感謝です。そして今、学んでいることを糧に主のからだなる教会に仕えたいと願っています。「教会が主イエスの愛に満ちお互いの弱さ、悲しさ、苦しさもさらけ出せ、喜びに満ちた愛の共同体になっているだろうか。」「仕えるとはどういうことか」を改めてと考えております。(ヨハネ13:34-35)(エペソ4:11-13)このことが私の課題です。65年の間、多くの兄弟・姉妹が捧げ今日まで信仰の継承がなされてきた伝統と歴史のある教会。それ故に、人間関係が大変濃い教会。福音宣教のために様々な行事に手を抜かずみんな頑張っている教会。その渦のような中で動いていると「主のみ声」を置き去りにしがちです。神の言

葉は生きていて、力があります。(ヘブル4:12) 聖書通読を日課にし「きょう聞いたみ声」を大切にし小さき者ですが信仰の確信に立った歩みをさせていただきたいと祈っております。ヘブル12:28

わが母校は永遠に続く!!

24期生 奥村 輝夫

卒業以来早くも1年と数か月が経過しました。小田急線(百合ヶ丘駅)と地下鉄千代田線(新御茶ノ水駅)を利用して、お茶の水聖書学院へ通学したことが、私にとっては夢のような日々でした。仕事を定年まで勤め、70歳になってからの学びでしたが、本当に楽しい毎日となりました。しかも学生時代に9年間過ごしたお茶の水は、私の故郷のようでもありました。当時はたくさんの喫茶店がありましたが、今は楽器店にあふれています。時代の移り変わりを感じながら、見るものすべてが新鮮で、また若返ったかという期待に胸膨らむ思いで過ごしました。

聖書もこんなに新鮮に読むことが出来るのだ、という感動を与えていただきました。また、学びの友や学院の方々に、祈り支えていただいた事は、卒業できるかどうかの瀬戸際で、大きな励ましになりました。今さらながら、自分の存在自体が神に生かされており、それは当然なのではなく、全くの奇跡の中にあるということを、強く感じている今日この頃です。

祈祷会での学びと祈りを、自分の使命として、今大切なものの一つにしています。夜の祈祷会には、祈りに対する聖霊の特別な導きがあるように感じます。聖書の学びは、詳細に見直しながら新しい発見が次々と与えられます。一人の鋭敏な感覚の持ち主が出席しておられ、その方の素晴らしい聖書理解に衝撃的な驚きをもって接することも度々です。教会は、私を含めて高齢者の集まりになりつつありますが、主が与えてくださる道を求めて、学びと大胆な祈りを本気で続ける必要があります。お茶の水聖書学院での学びが、きっと実を結び、いろいろなケースに役立てることの出来る時が、すぐ来るように思います。

信者の家族の救いも、祈り求め続けなければならない課題です。事態は深刻でかなりの方々が、ご主人や

お父さまお母さま等々の救いを祈っておられます。私は、結婚後約10年間ノンクリスチャンであり、雑草のような生活を送ってきましたから、大学生の頃までに洗礼を受けたエリートクリスチャンではないので(少し言いすぎかな? 物議をかもすかな?), ご主人の救いには何かアドバイスができるのではないかと思います、知恵を求めて日々祈りつつ模索しています。

今また、在学中に受講したかったけれども受講できなかった「聖書地理歴史」(飯島勅先生)を学んでいます。有難いことです。壮大なスケールの旧約聖書の醍醐味を、地理歴史をたどることによって、大変身近なものとして、実感として、受け止めることが出来ています。

お茶の水聖書学院の歩みを、多くの人々に知っていただき、学院がこれからも学びの中核として、その光を永遠にそして四方に照らし続けることが出来るように、後援会・同窓会の一員として、僕の働きが出来ればと思っています。

「よくやった。良い忠実なしもべだ」と、言ってもらえるでしょうか。

「人生の学び舎」

24期生 末吉 寿子

私は、大学卒業後すぐにOBIに入学しました。2年間は飲食店で働きながら学びを続け、その後キリスト者学生会(以下KGK)という学生宣教の現場で非常勤スタッフとなり、さらに2年間の学びを受けました。信徒が教会を支えることを柱としているOBIは、どの授業もその軸からブレることなく、教会に寄り添う学びがなされていたことをよく覚えています。先生方全員が現役の牧会者だったこともあり、授業の中で語られる言葉の一つ一つから、教会を愛することを選び取り続ける生き方を教えられました。当時、無牧の中で葛藤を覚えていた私にとって、授業で学んだことを実際に生きることの難しさと、その重要性が目が開かれたことは人生の中でも意味深い経験でした。

また、普段はいつも若者(KGKの学生)と過ごしている私にとって、OBIで出会う人生の先輩方とお交わりは、「生涯信仰者」として生きることの豊かさ、また奥深さを教えられる機会でもありました。授業が始まる前から姿勢を正して

備える姿、意欲的に質問をする姿、学びを受けて自らを省みる姿、授業終了後も残って復習される姿。みなさんの神様への情熱、聖書を学ぶ謙遜な姿勢に圧倒され続ける4年間でした。少しおこがましいかもしれませんが、信仰者は生涯成長し続ける存在であり、遅いことは何一つないということをおみなさんの姿から教えていただきました。

OBIでの4年間で、仕事の忙しさや経済的な厳しさから学びを諦めそうになったこともありました。そのとき、「ここで諦めたら、きっと将来同じ状況になったときに末吉さんの力にならない。だから一緒に頑張りましょう。」と、様々な方から当事者のように励ましの言葉をいただき、2016年度に無事卒業を迎えることができました。その後、フルタイムのKGK主事としてご奉仕させていただいていますが、OBIの皆さまが忍耐をもって導いてくださった原体験が、今の学生への接し方の土台となっていると実感しています。これからも一卒業生として、この学び舎が豊かに用いられるよう心よりお祈りしています。

人の心を神に向ける力

音楽科卒業生 20期生 加藤 かおり

私はいつも、私の前に主を置いた。

主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。

詩篇16:8

この詩篇のみことばによって、主は私を教会音楽の学びへ導いて下さいました。

「教会音楽は人を救うことはできないが、人の心を神に向ける力がある」とある講習会で岳藤照子先生のお話をお聞きした時、礼拝奏楽者として教会音楽について何も知らないことに気づかされ「人の心を神に向ける力がある」教会音楽を学びたいと思いました。その後、OBI音楽科講師の遠藤おたる先生に勧められて、OBI音楽科本科コースに入学しました。本科の3年間はあっという間に過ぎ、卒業後はレッスンコース生として引き続きOBIで学ばせていただいております。オルガンや声楽のレッスンに四苦八苦しながら、ご指導くださる先生方の愛と忍耐に励まされ一曲また一曲と演奏できる曲が増えました。教会歴や宣教題に合せた前奏曲や後奏曲

の選び方なども教えて頂き教会の奏楽奉仕が祝されています。学びの継続には闘いもあります。練習時間の確保、授業料の工面、発表会での失敗など。しかし神様は全ての問題を通して、神に信頼して歩むことを教えてくださいました。苦しみや悲しみがいつしか主への感謝の賛美に変えられていく。「教会音楽は人を救うことはできないが、人の心を神に向ける力がある」ことを学院の学びを通し体験することが出来ています。昨年6月1日、私たちは愛する遠藤かおる先生を天の御国へ見送りました。先生は召される2ヶ月前まで私たちをご指導くださいました。御茶ノ水駅の階段を30分かけて上げられたこともありました。起き上がることのできないほど辛い体調の時であってもレッスンの時間になると起き上がる力が与えられることや、声楽のレッスンで私たちが歌う賛美のみことばに励まされ魂に力が与えられることなどを先生は時折、私たちに分かち合ってくださいました。私はかおる先生から「いのちさえ惜みず神に仕え、また賛美する」働きの尊さを教えて頂きました。今年の1月19日音楽科学院生は「横田早紀江さんと励まし合う歌と祈りの音楽会」で合唱する機会が与えられました。かおる先生のCDの歌声に合わせて「主の恵み」を合唱しました。練習では一度もうまいかなかったのに、本番はまるでかおる先生が私たちと一緒に賛美しておられるかのようにCDの歌声と合唱の息がピッタリ合ったのです。指揮をされていた斉藤とし子先生の目には光るものがありました。学院での教会音楽の学びのすべてに主の導きがあること、先生方のご指導の中に、学友との交わりの中に、私たちのささげる賛美の中に主のご臨在が確かにあることを覚えます。OBI教会音楽科の働きが主に在って豊かに祝されますことを祈りつつ、すべての栄光を主に帰させていただきます。

2018年度OCCお茶の水聖書学院 後援会・同窓会総会報告

2018年5月21日(月) 午前11時よりOCC207号室(OBI教室)を会場に2018年度OBI後援会・同窓会総会が開かれました。

総会はI部とII部に分かれ、I部は事務的なことを中心とした総会、II部は懇親を目的とした愛餐会です。出席者は21名でした。

第I部の総会は倉内一壽総務役員の司会により進められました。

賛美、祈り、開会挨拶(有田会長)、奨励(藤原学院長)、OBI現況報告(福井教務主任)に続いて議題審議に入り、規約一部改正、役員一部交代、会計報告、予算審議、2017年度活動報告、2018年度活動方針について審議され全員一致で承認されました。

第II部の愛餐会は戸川偕生副会長の司会で進められました。

賛美、祈りの後、食事を頂きながら自我介绍・近況報告を出席者全員がいたしました。

その後、賛美、閉会の祈りを持って終了いたしました。終了時間は午後2時でした。

訃報とお願い

インマヌエル教団の江藤博久牧師(12期生)は肺ガンのため召天され、1月14日葬儀が行われました。

この情報はOBIに連絡があったのではなく、たまたま後援会・同窓会の役員が第三者から聞いて知ったことです。

OBI同窓生で召天された方はニュースレターに掲載し皆様にお知らせしたいと思いますので、同窓生の訃報があった場合OBI事務局までご連絡ください。



2017年度会計報告

OBI後援会・同窓会 2017年度決算報告および2018年度予算

単位：円

項目	2016年度実績	2017年度予算	2017年度実績	予算対比	2018年度予算案
維持献金	969,000	1,080,000	1,118,000	38,000	1,250,000
同窓会費	165,000	170,000	162,000	-8,000	165,000
任意献金	211,000	210,000	209,000	-1,000	210,000
總會会費	25,500	25,000	22,500	-2,500	25,000
雑収入	77	0	22,656	22,656	0
小計	1,370,577	1,485,000	1,534,156	49,156	1,650,000
繰越金	285,186	114,667	114,667	0	173,116
合計	1,655,763	1,599,667	1,648,823	49,156	1,823,116

*維持献金は、正会員（卒業生）、賛助会員（個人または団体）による献金（毎月自動引落とし）

*同窓会費は、正会員（卒業生）による同窓会費（3,000円／人・年）

*任意献金は、正会員（卒業生）、賛助会員（個人または団体）による任意献金

*總會会費は、總會の参加費

*雑収入は、預金の利息等

項目	2016年度実績	2017年度予算	2017年度実績	予算対比	2018年度予算案
事務・消耗品費	1,138	10,000	8,202	-1,798	5,000
印刷費	135,000	70,000	75,600	5,600	80,000
通信費	39,192	60,000	28,836	-31,164	40,000
振替手数料	20,044	25,000	21,474	-3,526	25,000
後援会・同窓会活動費	125,722	89,000	71,595	-17,405	95,000
OBI協力献金	1,200,000	1,250,000	1,250,000	0	1,350,000
旧後援会諸経費	0	0	0	0	0
雑費	20,000	20,000	20,000	0	20,000
小計	1,541,096	1,524,000	1,475,707	-48,293	1,615,000
繰越金	114,667	75,667	173,116	97,449	208,116
合計	1,655,763	1,599,667	1,648,823	49,156	1,823,116

*事務・消耗品費は、物品の購入費、コピー代等

*印刷費は、印刷会社に支払うニュースレター・はがきの印刷代

*通信費は、郵便局に支払う郵便・はがき代

*後援会・同窓会活動費は、総会や役員会等における活動費等

*振替手数料はゆうちょ銀行の維持献金・郵便振替の手数料

献金者名 正会員（敬称略）

阿久津千枝子	有田貞一	有田美榮子	安藤良一	飯島多岐夫	飯田みか	猪狩友行
石井由紀	石塚幸子	伊藤洋子	糸満ミユキ	内田光子	梅澤近子	奥津 晃
奥津榮子	奥村輝夫	小澤ナオミ	小野沢恵子	尾原光彦	加茂康一	鬼角由紀子
木下順子	国東恵子	國松裕子	窪井節子	窪田淳子	小林喜久雄	小林直子
駒井 卓	佐藤 敬	三友庸子	島田伸史	島田裕子	杉山礼子	須子 都
鈴木芳宣	高峰公子	田中恵子	田畑勝敏	戸川信生	永井みよ子	永澤良子
中島健一郎	中平悦子	中村良子	浪井弘子	西口修八	芳賀 功	東 利雄
日名富子	平松庸一	福井 ちよ	藤原導夫	堀口容子	牧野三恵	町田恵子
三浦喜代子	宮内芳枝	森 登	森本 龍	山口松子	山本しづか	吉村理美子
米田由起子	脇坂 勇	倉内一寿	依田和子	セキワキコ		
賛助会員（敬称略）						
飯島延浩	植木朋子	金本 悟	神田正吾	坂本二郎	高橋和子	福井 誠
吉野俊子	古淵キリスト教会		武蔵村山バプティスト教会		風川聖書教会東京集会	
鎌倉海岸キリスト教会 経堂めぐみ教会						

	3月31日現在
ゆうちょ銀行	132,509
郵便振替	32,808
手元現金	7,799
計	173,116

会計報告 皆様のご協力感謝いたします。

監査報告 上記の結果、会計監査を行いました。記載内容は間違いなく正しく示されていることを認めます。

2018年4月23日

会計監査

茅賀 功

編集後記

1年ぶりのニュースレターです。皆さま元気にお過ごしでしょうか。今年度は後援会・同窓会に音楽科2名の卒業生が加えられました。感謝です。

今号のニュースレターの巻頭言はご自身発行に関わられたヘブル語入門書について後援会・同窓会の有田貞一会長に書いていただきました。また、昨年OBIになされた感動的な神様の方法の証しを藤原導夫学院長に書いていただきました。祈りに対する神様の即日回答です。

祈りの答えは神様の主権に依りますから、神様の方法で神様が決められた時に神様の栄光を表わす形で答えてくださることを実感いたしました。

今回、OBI卒業後の歩みについて4名の同窓生の方に寄稿していただきました。4名の方がそれぞれの場で、OBIでの学びと経験を生かされて主の良き証し人として歩まれていること、感謝いたします。

暑さはしばらく続きそうです。皆さまご自愛ください。

主の祝福をお祈り申し上げます。

（戸川）